

国内には110を超える活火山がありますが、ほとんどの火山は噴火の周期性が不明で、いつ噴火するのか分かりません。また、噴火の現象もさまざまです。そして、火山はひとたび噴火すると長引くことが多く、終息の時期の予測が困難なため、被災すると生活再建は非常に苦労します。普段からしっかり備えることが大切です。



ポイント

1

どんな被害が発生するのか?

発生するさまざまな被害

例えば、大量の火山灰が発生した場合、屋根に積もって家屋が倒壊する可能性があります。また、火山灰が舞っていると、視界不良をもたらし、自動車の運転が難しくなります。他には、火口から飛散する噴石や、高温の火山灰・火山ガス・溶岩片が一体となって流れ出る火砕流によって、人体に危険を及ぼす場合もあります。また、積雪期に火山が噴火すると、斜面の雪が溶けて、融雪型火山泥流が発生し、建物や農地などが被害を受ける場合もあります。このように被害はさまざまです。



大きな噴石や火砕流、融雪型火山泥流は、避難までの時間的猶予がほとんどなく、生命への危険性も高いため、防災対策上、重要度の高い噴火現象と位置づけられています。

ポイント

2

身を守るためには?

登山する際は、気象庁の噴火警報をあらかじめチェックするようにしましょう。



噴火に遭遇したら、建物の陰などに隠れて、噴石や火山灰から身を守りましょう。

火山噴火に見舞われたら行動すること

火山噴火が起こったとき、常にその山の状況が見えているとは限りません。このため、噴火そのものが分からないときがあります。異変を感じたら、速やかに避難を開始することが大切です。噴火現象はどのように変化するのか予測がつかないことから、できるだけ火口から遠くに避難するようにします。遠距離避難が難しいときは近くの建物などに逃げ込みましょう。

避難中に気をつけること

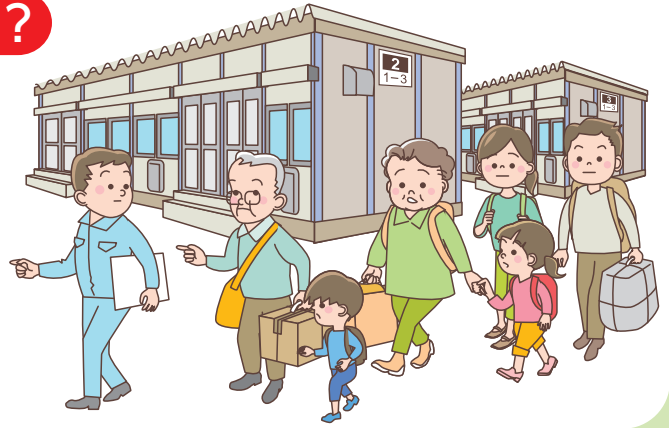
ヘルメットなどをかぶり噴石等から頭を守りながら、また、タオルなどを口に当てて火山灰等から身を守りながら、避難しましょう。防塵ゴーグルや防塵マスクを準備しておくこと、さらに安心です。

ポイント
3

被災後の生活で困ることは？

想像以上に過酷な被災後の生活

よくある被害は、家屋や農地などが被害を受けることです。噴火活動が長期化すると避難生活も長くなり、仕事を失った人は収入が途絶える可能性も出てきます。最悪の場合、火山灰や溶岩流などが積もり、災害前の土地が使えなくなって、他の場所に移転を余儀なくされることもあります。



ポイント
4

被害を少しでも小さくするためには？

火山噴火による被害を最小限にするために備えること

- 自宅の近くの山が活火山かどうか、確認したことはありますか？
- 噴石や火山灰などから身を守るために、ヘルメットや防塵ゴーグル・防塵マスクを準備していますか？

* 登山する際は、事前に火山活動に関する情報を集めるようにしましょう。

対策が
できているのか、
チェックして
みましょう！

ヘルメットや防塵ゴーグル・防塵マスクなどを準備して、火山噴火後、すぐに避難できるよう動きやすい衣類を準備しておきましょう。



被災後の生活のために準備しておくこと

- 食品や日用品を多めにストックしていますか？*1
- 避難生活に備え、必要最低限のものをリュックなどにまとめていますか？
- 避難路や避難場所を知っていますか？
- ハザードマップなどで、住んでいる地域の災害リスクを確認していますか？*2
- 近隣住民同士で協力できる体制はできていますか？

*1 賞味期限などの心配をなくすために、日常の中で消費しながら買い足すといった「ローリングストック法」と呼ばれる備蓄方法があります。

*2 ハザードマップは、自治体のホームページから入手することができます。

飲料水や食料、携帯ラジオ、懐中電灯、歯ブラシ、常用薬（お薬手帳）、携帯電話用充電器、保険証、貯金通帳のコピー、予備のメガネ、携帯トイレなどをリュックに入れておきましょう。



避難場所まで、複数の経路を確認しましょう。

